

## 調査結果の概要

### I 青少年の地域への関心

- 青少年の約8割が住んでいる市町に愛着を、約5割が誇りを持っている
- 青少年の約4割がいま住んでいる市町に将来も住みたいと考えている

#### (1) 地域愛着度

- ・住んでいる市町が「好きである」、「まあ好きである」と答えた割合は、青少年全体で77.1%であり、前回（H22）、前々回（H16）調査に比べ増えている。（H16 72.8%→H22 74.9%→H29 77.1%）
- ・年代別では、小学生が86.2%と最も高く、次いで中学生75.7%、青年70.7%、高校生70.3%となっている。
- ・いま住んでいる市町の一員として誇りを「いつも強く感じる」、「ときどき感じる」と答えた割合は、青少年全体の46.2%であり、前回、前々回調査に比べ増えている。（H16 36.1%→H22 41.7%→H29 46.2%）

#### (2) 永住意識

- ・いま住んでいる市町に将来も住みたいかとの問いに「是非そうしたい」、「できればそうしたい」と答えた割合は、全体の42.2%であり、前回、前々回調査に比べ増加している。（H16 34.8%→H22 39.2%→H29 42.2%）
- ・年代別では、小学生が59.8%と一番高く、次いで、青年48.2%、中学生34.7%、高校生26.5%となっており、前回調査と比べ、中学生が大きく増加している。（H22 小学生60.4%、中学生25.4%、高校生25.8%、青年47.5%）

### II 青少年と家庭生活

- 小中高生全体で、家族と話をする、あいさつをすることが「よくある」割合は8割、家族全員で夕食を食べることが「よくある」割合は5割
- 青少年の9割以上が家族に感謝している
- 老親に対し、青少年の約5割が「自分の生活力に応じて養う」、約3割が「どんなことをしても養う」と回答

#### (1) 家庭生活の様子

- ・小中高生が家庭の中で「よくある」と答えた選択肢は、「家族（兄弟姉妹以外）と話をする」81.1%、「あいさつをする」79.1%、「家族全員で夕食を食べる」50.4%、「休日に家族と買い物や遊びに出かける」39.0%となっている。
- ・年代別では、ほとんどの選択肢で小学生が高く、年代が上がるにつれて低くなっている。

- ・一方、家族と話をすることが「めったにない」、「あまりない」は、全体で4.8%となっている。

#### (2) 家族の機能

- ・家族や家庭は何が大事かとの問いについては、「くつろぎとやすらぎの場」が青少年全体で30.2%と最も多く、次いで「衣食住など日常生活を支えてくれる」23.7%、「心のよりどころ」17.2%、「いざというときに力になる」13.3%、「社会で生きていく上で大切なことを教えてくれる」13.0%の順となっている。

#### (3) 家族への感謝意識

- ・親や家族をありがたいと「いつも思う」、「ときどき思う」と答えた割合は青少年全体で91.3%であり、前回調査と比べ「いつも思う」と答えた割合が全ての年代で増加している。

#### (4) 親の扶養観

- ・高齢になった親を養うことについて、「自分の生活力に応じて養う」と答えた割合が50.8%と最も高く、次いで「どんなことをしてでも養う」が31.8%となっており、前回調査に比べ、「どんなことをしてでも養う」が全ての年代で増加している。

### Ⅲ 青少年と学校生活

○各年代とも8割以上が学校生活に満足しており、前回調査から増加  
○満足とした理由は、「好きな友だちがいる」、「いろいろな学校行事がある」が多く、不満な理由は、各年代とも「学校生活になんとも興味がない」が最も多い

#### (1) 学校生活の満足度

- ・現在（または最終）の学校生活に「満足している」、「まあ満足している」と答えた割合は、小学生87.6%、中学生86.9%、高校生80.4%、青年82.0%と、全ての年代で8割を超え、前回からも増加している。
- ・満足している理由は、「好きな友だちがいる」69.4%、「いろいろな学校行事がある」60.4%、「部活やクラブ活動が楽しい」49.1%の順となっている。
- ・一方、不満な理由は各年代とも「学校生活になんとも興味がない」が最も多く（小学生37.8%、中学生43.5%、高校生52.1%、青年38.5%）、次いで小学生では「友だちにいじめられる」28.4%、中学生では「きれいな先生がいる」42.0%、高校生では「授業の内容がよくわからない」40.3%が多い。

#### IV 青少年の友人関係と悩み

- 青少年の約9割が「心を打ち明けて話せる友だち」を持っている
- 青少年の約4割が悩みや心配事を抱え、年代が上がるにつれ高くなる
- 小学生は「友だち」、中高生は「将来の職業」、青年は「お金」が多い

##### (1) 友人関係の状況

- ・青少年の91.2%が「心を打ち明けて話せる友だち」を持っている。
- ・友だちになったきっかけは、各年代とも「学校」が最も多く（小学生80.5%、中学生89.3%、高校生94.1%、青年90.9%）、その他では、小学生では「塾・稽古事・習い事など」31.8%、中学生では「友だち同士の交流」25.2%が他の年代に比べ多くなっている。
- ・友だちを持たない理由としては、「他人とのつき合いがうまくできない」34.4%、「なんとなく」32.2%の割合が高く、特に「他人とのつき合いがうまくできない」は年代が上がるにつれて高くなっている。（小学生28.8%、中学生29.2%、高校生40.0%、青年48.3%）

##### (2) 悩みの状況

- ・悩みや心配事が「ある」と答えた青少年は43.6%で、全年代で前回調査から減少しているものの、年代が上がるにつれて高くなっている（小学生32.2%、中学生34.5%、高校生55.3%、青年69.9%）。
- ・悩みの内容では、小学生で「友だち関係」46.0%、「勉強」41.7%、中学生で「将来の職業」59.4%、「学業」44.6%、高校生で「将来の職業」71.3%、「学業」65.9%、青年で「お金」62.9%、「将来の職業」56.3%が多くなっている。
- ・前回調査と比べ大幅に増加しているのは、高校生の「学業」が+15.2ポイント、「将来の職業」が+10.9ポイント、青年の「お金」が+12.7ポイントとなっている。
- ・悩みの解決方法としては、各年代とも「友だちに相談」（小学生32.3%、中学生45.5%、高校生61.3%、青年64.7%）、「親・兄弟に相談」（小学生45.5%、中学生44.1%、高校生43.6%、青年50.9%）が多く、中学生以上では「自分で解決」（中学生43.1%、高校生41.3%、青年40.1%）の割合も高くなっている。
- ・前回調査と比べ、中学生以上で「自分で解決」が増加（中学生+24.0ポイント、高校生+16.8ポイント、青年+19.3ポイント）している一方、小学生の「友だちに相談」（△19.5ポイント）が減っている。

## V 青少年と社会活動

- 地域の運動会や清掃活動等に参加した小学生は約5割、中学生は約4割
- 地域活動に最近「参加したことがない」割合は、年代が高いほど多い
- 小中高生の7割前後は「ボランティア活動に参加してみたい」とするが、青年は5割弱

### (1) 社会活動の状況

- ・青少年が参加した地域活動で一番多いのは、「地域のお祭り」であり、青少年全体で65.3%となっている。
- ・その他では、「地域の運動会など」33.4%、「道路や公園の清掃、防災活動など」33.4%の割合が高く、特に中学生の「道路や公園の清掃・防災活動など」は、前回調査に比べ+20.8ポイント（H22 23.5%→H29 44.3%）の大幅増となっている。
- ・一方、地域活動に最近参加したことがない青少年は15.1%となっており、年代が上がるにつれて多くなっている。（小学生7.7%、中学生9.9%、高校生20.9%、青年35.1%）

### (2) ボランティア活動への参加

- ・ボランティア活動へ「参加してみたい」と回答したのは、小学生72.4%、中学生74.7%、高校生65.3%、青年48.5%となっており、特に、前回調査から、中学生（+21.4ポイント）、高校生（+8.3ポイント）が大幅に増加している。
- ・青年は、「参加してみたい」と「参加したくない」（48.5%）が同割合となっている。

## VI 青少年の職業観と余暇

- 「県内でずっと働きたい割合」は、小学生で約3割、中高生で約2割。
- 職業を決める要因として重要なことは「収入」に次いで「自分の能力を發揮できる」の割合が高い
- 平日の過ごし方で1時間以上行っている割合が一番高いものは「テレビ」（約7割）だが、全ての年代で前回より減少
- 高校生の約3割、青年の約4割は、平日に3時間以上「携帯電話やスマートフォン」を利用

### (1) 職業観

- ・「山口県でずっと働きたい」と答えた青少年の割合は28.3%で、以下、「働く場所はどこでもかまわない」20.5%、「福岡や広島などの近隣の都市でずっと働きたい」17.3%、「若いうちは都市で働いて、いずれ山口県内に戻って働きたい」14.7%、「東京や大阪などの大都市でずっと

働きたい」13.1%の順となっている。

- ・「県内でずっと働きたい」と答えた割合を年代別にみると、小学生30.6%、中学生22.6%、高校生21.9%、青年51.9%となっており、前回調査とほぼ同じ割合である。
- ・中学生以上が職業を決める上で「かなり重要」、「やや重要」と答えたものは、「収入」94.4%が最も多く、次いで「自分の能力を発揮できる」89.7%、「休みが多く取れる」81.1%、「他人や世のためになる」80.2%となっている。
- ・前回調査と比べ、全体では「休みが多く取れる」が+12.0ポイントとなっており、いずれの年代でも増加しているほか、高校生では「世間の評判がよい」が+14.9ポイント（H22 59.3%→H29 74.2%）、青年では「仕事の内容が楽」が+14.8ポイント（H22 32.1%→H29 46.9%）と大きく増加している。

## (2) 青年の転職等の希望

- ・就労している青年のうち「できれば今の仕事を続けたい」が37.3%となっている一方、「職種はこのままで別の仕事先をみつきたい」、「これまでとは別の職種の仕事先を見つきたい」がそれぞれ14.1%となっている。
- ・転職については、「県外に転出してでも、条件のよい就職先に移りたい」20.3%（△4.7ポイント）、「県外に転出してまで移りたいとは思わないが、県内ならば考えたい」31.1%（+7.2ポイント）、「それほど条件はよいとはいえないが、いまのままで辛抱できる」20.3%（△5.8ポイント）、「今のままで充分」26.0%（+3.7%）となっている。

## (3) 余暇

- ・休日の過ごし方として、小学生は「スポーツ」40.7%、「勉強」33.1%、中学生は「学校の部活動」53.2%、「ゲーム・将棋など」33.3%、高校生は「学校の部活動」48.3%、「休息・ごろ寝」44.8%、青年は「休息・ごろ寝」53.1%、「買い物・ショッピング」46.0%が多く、「家族との団らん」は全体で12.6%となっている。
- ・平日に1時間以上行って（利用して）いる割合が一番高いのは「テレビを見る」70.2%であり、次いで、「学習」61.1%、「携帯電話やスマートフォンを利用する」53.1%となっている。
- ・このうち「テレビを見る」は、全ての年代で前回調査から減少している。
- ・年代別では、小学生が、「テレビ」73.5%、「学習」70.9%、「スポーツ」62.2%、中学生が、「テレビ」75.0%、「学習」72.8%、「スポーツ」52.7%、高校生が、「携帯・スマホ」83.8%、「テレビ」62.3%、「学習」53.2%、青年が、「携帯・スマホ」88.3%、「テレビ」69.4%、「ゲーム」40.6%の順となっている。
- ・特に「携帯・スマホ」を3時間以上利用する割合が、高校生で29.2%、

青年で43.9%に上っており、前回調査に比べ、高校生が+6.5ポイント、青年が+17.2ポイント増加している。

## VII 青少年の自己評価

- 青少年の約9割は「人の役に立つ人間になりたい」と思っている
- 「自分と性格や意見の合わない人とは、あまりつきあいたくない」は、高校生約7割、青年約8割、「今が楽しければそれでいい」は全ての年代で6割前後

### (1) 青少年の自己評価

- ・自分自身を評価する質問において、「人の役に立つ人間になりたい」に「よくあてはまる」又は「ややあてはまる」と答えた青少年は、87.2%であり、各年代とも調査項目の中で、最も高い割合となっている。
- ・次いで、「何事にも意欲を失わず、最後まで頑張りとおす」71.0%、「友だちが悪いことをしていたら注意できる」69.3%となっている。
- ・一方、「自分と性格や意見の合わない人とは、あまりつきあいたくない」については、高校生が73.8%、青年が84.1%と高く、また、「コツコツと努力するのは苦手」については、中学生59.0%、高校生54.0%、青年50.2%と中学生以上で5割を上回っている。

## VIII 青少年のインターネット利用環境

- スマートフォンは、小学生の約2割、中学生の約4割、高校生、青年の9割以上が所有
- インターネットは、小学生の約7割、中学生の約9割、高校生・青年はほぼ全員が利用
- インターネットの利用目的は、「動画を見る」約8割、「音楽を聴く」約7割、「ゲームをする」、「コミュニケーション」約6割の順
- 小中高生の約2割は、インターネットを利用して「勉強に集中できなかったり、睡眠不足になったりした」、「知らない人やお店からメッセージやメールが来たことがある」と回答

### (1) インターネット接続機器の所有状況

- ・青少年全体では、スマートフォン53.2%、通信機能付き端末44.0%、パソコン30.5%、携帯電話17.3%の順に所有する割合が高くなっている。
- ・年代別では、小学生及び中学生は通信機能付き端末を所有する割合が最も高く（小学生43.8%、中学生54.7%）、スマートフォンを所有して

いる割合は、小学生18.2%、中学生37.3%、高校生93.8%、青年91.6%となっている。

(2) インターネット使用状況

- ・インターネットを使用している割合は、小学生69.3%、中学生87.4%、高校生98.4%、青年99.2%となっている。

(3) インターネット使用目的

- ・インターネットを使用する目的は、青少年全体で、「動画を見る」79.1%、「音楽を聴く」71.2%、「ゲームをする」64.3%、「コミュニケーション（メール、SNS等）」60.7%の順となっている。
- ・小学生は、「ゲームをする」72.9%、「動画を見る」70.9%、中学生は、「動画を見る」81.2%、「音楽を聴く」77.5%の割合が高く、高校生、青年は、これらに加え、「コミュニケーション」（高校生80.0%、青年85.2%）の割合が高くなっている。

(4) インターネット使用上の経験

- ・小中高生にインターネット上のトラブルや経験を聞いたところ、「あてはまるものがない」が43.7%となっている一方、「勉強に集中できなかったり、睡眠不足になったりした」17.4%、「知らない人やお店からメッセージやメールがきた」16.1%などの経験者もあり、年代が上がるにつれて増えている。
- ・高校生では、「インターネットで知り合った人とメッセージやメールのやり取りをしたことがある」が32.4%となっており、インターネットが新たな交流のツールとして使われている。

(5) インターネット使用上のルール

- ・小中高生のインターネット使用上のルールとしては、「利用する時間を決めている」27.1%、「利用者情報が漏れないようにしている」24.9%、「困ったときにすぐ保護者に相談する」23.2%となっている一方、「特にルールを決めていない」が23.4%となっている。